

第62回全国大会報告

集配再編などのめめるか! JPSは廃止しろ! の声 改憲と米軍再編に本部批判続出

●大会での発言 (要旨)

(北海道) 160局無集配化で地域と離れてしまう。配達距離30^{キロ}、冬期は配達できなくなる。

(東北) JPSはこのまま改善されなければ廃止を含め英断を迫るべき。地域給導入は断固反対。

(北陸) 本部案で地域住民の信頼かちとれるのか。結果ありきの提案であり、組合としてのチェックを強化せよ。

(東京) 新集配から2ネット、業務運行は破壊されている。机上の空論、通区能力破壊の施策だ。慢性的な要員不足の現実。深夜勤の労働条件の改善を求める。

(南関東) 最重要課題は帰属問題。求める職種を充足させろ。重大な労働条件の変更は認められない。本当にJPS等の施策は有効なのかどうか検証せよ。

(東海) 現場の理不尽な削減やめよ。JPS即刻やめよ。

(近畿) 超勤激増はなぜか。これ以上、現場への締め付けは御免。帰属では本人同意を前提とした協約事項とせよ。

(四国) 労働力確保できなければ民営郵政はもたない。ベテランが勧奨で辞める。定年まで働ける職場とは何かを本部は考えろ。JPSは上意下達、画一的で業務運行が破壊されている。やめるべきだ。岩国基地問題に取り組んできた。平和問題、反動立法への取り組み具体的に強めよ。

(九州) 山間離島を抱えている。年繁が乗り切れるのか。50ccで山間配達できない。地域給反対、これ以上の貧困化は御免だ。JPSは失敗。ムダ・ムリ・ムラこそがJPS。スタンディングワークは即刻中止せよ。

(沖縄) 米軍再編反対の3万5千人集会を開いた。重要政治課題の取り組みを。憲法改悪について本部の見解を求める。希望する会社に帰属させ不安を解消を。前倒しの退職勧奨を本部は認めたのか。なぜ人件費が増大したのか、JPSの総括を求める。



本部方針否決を訴える

全国労組交流センター全通労働者部会は全国の闘う仲間とともに大会会場前で代議員・傍聴者ら一人ひとりにビラを配り訴え会場包囲デモを行った

(6月14日 神奈川県民ホール前)

6月14日、16日に開かれた全通(JPU)全国大会の争点は、第一に、集配拠点局の再編大合理化でした。第二に、憲法改悪と米軍再編問題です。第三に、全郵政との組織統一問題です。第四に、JPSや2ネット、地域給導入をはじめとする賃下げ問題でした。討論では、各地の代議員からは本部方針を激しく批判する発言が続出し、集配再編など飲めるかという発言がいつぎました。

労使協調路線のあげくのはてに、郵政分割・民営化攻撃に完全屈服して組合員を裏切り、その首を郵政公社総裁・生田や新会社社長・西川に差し出そうという、大量首切りを推進する中央本部の姿があらためて明らかになりました。今こそ全通労働運動解体をねらう民営化攻撃に対し現場から反撃にたとう。

(裏面P.11)

現場の声を無視した本部答弁

3日間を通して全国の代議員から出された批判にまったく答えず、ふざけきつた答弁に終始した中央本部は絶対に許せません。

集配再編について本部答弁は「地方と連携し民営分社化までに万全な体制確立をはかる」というものでした。早朝5時台始業や通勤・集配に片道何十キロも走らされるといふ、労働者の生活と労働をずたずたにし、これまで通り働き続けることができない状態に叩き込んで、勸奨退職という名の首切りに追い込むものです。どんなに反対があろうと現場の声を踏みにじって強行するというのです。

さらに沖繩をはじめとして、**改憲と米軍再編問題**について次つぎと意見が出されました。これに対する本部答弁は「連合内で議論展開する」とごまかしたうえで、「来年統一地方選、参院選で政権交代の道筋を」と問題をすりかえました。大会議案にも初日の菰田委員長のあいさつにも、改憲問題について一言も触れていない。要するに本心は改憲賛成なのです。「政権交代」を錦の御旗に民主党支持に走ることで、

実は民主党の改憲推進路線に労働者を動員しようとする連合・高木とJPU菰田らの策動は絶対に許せません。改憲のための国民投票法案（与党案）の国民投票運動の禁止の項に「郵政公社職員」が追加されました。郵政労働者の改憲反対運動が禁止されるようとしているのです。今こそ改憲阻止・米軍基地再編反対の闘いに全通労働者が立ちあがるべきです。

代議員からJPS（郵政版トヨタ方式）の廃止や**地域給反**対を求める発言が続出しましたが、本部は「ご理解願いたい」と開き直るものでした。JPSは集配再編と同様に、何よりも労働者の団結を破壊し、どんな命令にも服従する労働者へと奴隷化するための意識改革の攻撃です。民営化法には公社職員が新会社へ継承されると書いてあるから新会社で「雇用は確保されている」など本部は言いますが、それは欺瞞（ぎまん）です。大会の中でも多くの不安の声が出されました。来年10月の新会社スタート時点までに徹底した人減らし合理化が行われる、それがJPSや集配再編

です。中央本部は来年2月中央委員会です。中央本部は来年2月中央委員会で**全郵政との組織統合問題**を議題とするとしています。ねらいは現場の闘う全通労働者と職場の団結を一掃し、奴隷のように資本に屈服する、もはや労働組合とは言えない労働組合へと全通を解体することにあります。

採決の結果は、賛成295票、反対36票（無効1票）で、2月臨大より反対票は増え、菰田委員長に32票、難波書記長に65票の不信がつきつけられました。三日間の激烈な討論を通して、中央本部の底知れぬ屈服と裏切りにもかかわらず、やはり現場には闘う全通労働者が確固として存在し、闘う意志が生き続けていること、現場組合員の怒りはますます高まっていることが明らかになりました。

です。

中央本部は来年2月中央委員会で**全郵政との組織統合問題**を議題とするとしています。

ねらいは現場の闘う全通労働者と職場の団結を一掃し、奴隷のように資本に屈服する、もはや労働組合とは言えない労働組合へと全通を解体することにあります。

採決の結果は、賛成295票、反対36票（無効1票）で、2月臨大より反対票は増え、菰田委員長に32票、難波書記長に65票の不信がつきつけられました。三日間の激烈な討論を通して、中央本部の底知れぬ屈服と裏切りにもかかわらず、やはり現場には闘う全通労働者が確固として存在し、闘う意志が生き続けていること、現場組合員の怒りはますます高まっていることが明らかになりました。

現場から不屈の闘いをまき起こすなら、必ずや破綻（はたん）に追い込めるのです。ただただJPU中央本部が屈服することで、これを支えているのです。それは私たち現場が一番実感していることです。

大会議案で示された新会社4社の職員数を合計すると26万3500人になります。すでに郵政公社職員は26万人を割っています。最終答弁で本部は「月々の収入とボーナス、退職金などトータルで比較すると勸奨退職はベターではない」と組合員に話してまらいたいなどと、自分らが早期退職を推進しておきながら、ふざけたことを言い出しまつてです。あまりにもデータラメで破綻的であるがゆえに、何の整合性も成算もないままに、ただただ集配再編やJPSという名の首切り攻撃をくり押ししているのです。

現場から反撃の闘いを

民営化とは「去るも地獄、残るも地獄」という状態に労働者を追い込む攻撃です。だが労働者の屈服なくしては、決して貫徹できない攻撃です。

現場から不屈の闘いをまき起こすなら、必ずや破綻（はたん）に追い込めるのです。ただただJPU中央本部が屈服することで、これを支えているのです。それは私たち現場が一番実感していることです。

大会議案で示された新会社4社の職員数を合計すると26万3500人になります。すでに郵政公社職員は26万人を割っています。最終答弁で本部は「月々の収入とボーナス、退職金などトータルで比較すると勸奨退職はベターではない」と組合員に話してまらいたいなどと、自分らが早期退職を推進しておきながら、ふざけたことを言い出しまつてです。あまりにもデータラメで破綻的であるがゆえに、何の整合性も成算もないままに、ただただ集配再編やJPSという名の首切り攻撃をくり押ししているのです。

増員増区要求し闘おう。だからこそ闘う全通を守りぬき、一歩も退かず徹底非協力で現場の抵抗闘争を貫くなら、必ず民営化を破綻（はたん）に追い込むことができるのです。それがまた自らの首を守る道でもあります。

増員増区要求し闘おう

だからこそ闘う全通を守りぬき、一歩も退かず徹底非協力で現場の抵抗闘争を貫くなら、必ず民営化を破綻（はたん）に追い込むことができるのです。それがまた自らの首を守る道でもあります。

どの新会社に行くか決めるといふ「帰属決定」までの過程が勝負です。そして実際に新会社をスタートさせるとしている来年10月1日までが、集配再編をめぐる首切り合理化攻撃との決戦となります。現場での攻防が決定的です。民営化絶対反対を貫き、自主退職も引かず跳ね返す団結と闘いを現場からつくりあげよう。

深夜勤の廃止や増員・増区など具体的な要求をかせげ闘おう。それこそが連合JPU本部派を打倒する闘いでもあります。非協力・超勤拒否から物ダメ・ストライキへ向かって闘おう。同時にこの夏から秋は改憲をめぐる決戦です。全通労働者こそが改憲阻止の闘いの先頭にたとう。

「死ぬな、辞めるな、闘おう」を合い言葉に闘おう。

「死ぬな、辞めるな、闘おう」を合い言葉に闘おう。

超勤拒否・物ダメ・ストライキで闘おう

全国労組交流センターとは 総評が解散して連合・全労連がつくられた1989年に労働運動の連合化と対決し階級的な労働運動をつくりだすために結成した組織です。国鉄分割・民営化攻撃に対して唯一ストライキで闘いぬいた国鉄千葉動力車労働組合（動労千葉）を中心に産別やナショナルセンターの違いを越えて、闘う労働組合と労組活動家の日本における「ランク&ファイル運動」すなわち労働組合を労働貴族の手から現場労働者の手に取り戻す運動です。あなたも会員になりませんか。職場の情報をお寄せください。